

# 日本英文学会関東支部 第 28 回(2026 年度秋季大会) プログラム

日時: 2026 年 11 月 28 日(土)

会場: 聖徳大学松戸キャンパス

〒271-8555 千葉県松戸市岩瀬 550

後援: 聖徳大学

## アクセス方法

JR 常磐線・JR 上野東京ライン・JR 乗り入れ地下鉄千代田線・京成松戸線松戸駅下車  
徒歩 5 分

松戸駅東口を出てまっすぐ進み、イトーヨーカドー内のエスカレーターを利用して 5 階へ。  
5 階出口からキャンパスは目の前です。

本学会は会員による活動を基盤として運営されております。  
本大会へのご参加は原則として会員の方を対象としております。当日は非会員の方の聴講も可能  
ですが、ぜひこの機会にご入会いただきますようお願い申し上げます。  
ご入会案内はこちら → [https://elsj.org/membership/membership\\_top.html](https://elsj.org/membership/membership_top.html)

## 日本英文学会関東支部事務局

〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 1-2

研究社英語センタービル

Tel/Fax 03-5261-1922

E-mail: [kanto@elsj.org](mailto:kanto@elsj.org)

|                                                                      |                                                                                              |                                                                                    |
|----------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------|
| 11:00<br> <br>12:00                                                  | <b>理事会</b><br>1 号館 3 階 1322 教室                                                               |                                                                                    |
| 12:20<br> <br>12:50                                                  | <b>総会</b><br>1 号館 3 階 1322 教室                                                                |                                                                                    |
| 12:20                                                                | <b>開場・受付開始</b><br>受付:1 号館 3 階 1323 教室前<br>書店展示:1 号館 3 階フロア<br>発表者控室:1 号館 3 階 1321 教室         |                                                                                    |
| <b>研究発表 1</b><br><br>1 号館 2 階<br>1 号館 3 階<br><br>13:00<br> <br>13:40 | <b>第 1 室 1323 教室</b>                                                                         | <b>第 2 室 1219 教室</b>                                                               |
|                                                                      | エマソン以後の抒情詩の語り手——<br>ホイットマンとディキンソンにおける自<br>己の負荷と可能性<br><br>(発表者)<br>杜 博暦<br><br>(司会)<br>金澤 淳子 | 条件分岐とくり返し——ベケット『ワット』<br>の執筆装置としてのアルゴリズム<br><br>(発表者)<br>江刺 佳紘<br><br>(司会)<br>橋本 健広 |

|                                                                                              |                                                                                                                                                                                                                                         |                                                                                              |
|----------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p><b>研究発表 2</b></p> <p><b>1 号館 2 階</b><br/><b>1 号館 3 階</b></p> <p>13:50<br/> <br/>14:30</p> | <p>リベラリズムからサッチャリズムへ——David Lodge の <i>Nice Work</i> における左派的な教育理念の敗北</p> <p>(発表者)<br/>中島 勇斗</p> <p>(司会)<br/>菅野 素子</p>                                                                                                                    | <p>トウビーは「感情の人」か——『トリストラム・シャンディ』における道徳的判断の条件</p> <p>(発表者)<br/>中地 拓馬</p> <p>(司会)<br/>川崎 明子</p> |
| <p><b>日本英文学会<br/>関東支部 20<br/>周年記念企画<br/>1 号館 2 階</b></p> <p>14:40<br/> <br/>16:40</p>        | <p><b>日本英文学会関東支部 20 周年記念トークイベント</b><br/><b>1 号館 2 階 1219 教室</b></p> <p>「日本英文学会関東支部の来し方行く末」</p> <p>(司会)佐藤 和哉<br/>(登壇者)丹治 愛<br/>(登壇者)齋藤 兆史<br/>(登壇者)遠藤 不比人<br/>(登壇者)奥 聡一郎<br/>(登壇者)侘美 真理<br/>(登壇者)久世 恭子<br/>(登壇者)阿部 公彦<br/>(登壇者)原田 範行</p> |                                                                                              |
| <p>17:30<br/> <br/>19:30</p>                                                                 | <p><b>懇親会</b><br/>Bistro Cafe “ENCORE”(アンコール)松戸</p>                                                                                                                                                                                     |                                                                                              |

開場・受付開始(12:20 より 受付:1 号館 3 階 1323 教室前)

**13:00-13:40【研究発表 1】**

第 1 室(1 号館 3 階 1323 教室)

(発表者)明治学院大学博士課程 杜 博暦

(司会)東京理科大学教授 金澤 淳子

エマソン以後の抒情詩の語り手——  
ホイットマンとディキンソンにおける自己の負荷と可能性

十九世紀アメリカにおいて、抒情詩は、Margaret Dickie が指摘するように、比較的私的で文化的には周縁的な位置を引き継いでいた(“Dickinson’s Discontinuous Lyric Self,” 1988)。その一方で、Scott Brewster のいうように、抒情詩は詩の本質に最も近く、内面的感情を凝縮して表す様式として理解されるようにもなった(Lyric, 2009)。同時に、エマソンの自己信頼は、“the infinitude of the private man” (Journals and Miscellaneous Notebooks of Ralph Waldo Emerson, vol. 7: 342)という私的自己の拡張を強調し、抒情詩の語り手に新たな圧力を与えた。本発表では、このような状況のもとで、抒情詩という比較的短く私的な詩の枠組みが、拡張された自己性をどのように担おうとしたのかを、ホイットマンとディキンソンの比較を通して検討する。とくに、ホイットマンの “Song of Myself” などにおける拡張的な語り手を参照しつつ、ディキンソンの “The Brain – is wider than the Sky –” (Fr598) などを中心に、抒情詩の語り手の限界と可能性について考えてみたい。

第 2 室(1 号館 2 階 1219 教室)

(発表者)東京大学博士課程 江刺 佳紘

(司会)中央大学教授 橋本 健広

条件分岐とくり返し——  
ベケット『ワット』の執筆装置としてのアルゴリズム

ヒュー・ケナーは『機械という名の詩神』(1987 年)のなかで、ベケットの長編小説『ワット』(1953 年)について論じるとき、「ベケットの文章はすでに初期のコンピュータ言語で執筆されている」と書き、実際に本作のテキストの一部を初期のプログラミング言語 Pascal に翻訳することを通じて、自らの主張を実証してみせた。

本発表は、およそ 40 年前にケナーが鋭い洞察によって実践した翻訳作業を踏まえつつ、ケナーが翻訳に挑戦していない『ワット』のテキストを選択し、最新のプログラミング言語を使用してプログラムに翻訳する。この実践を通じて、本発表は、ベケットが小説の言語をコンピュータが数値計算を実行することのできるプログラミング言語のレベルに変換し、書き手として主体的に物語を執筆するのではなく、コンピュータがプログラムを実行するようにアルゴリズムに従って文章を自動的に生成する執筆形式を創造した可能性を探求する。

13:50-14:30【研究発表 2】

第 1 室(1 号館 3 階 1323 教室)

(発表者)東京大学修士課程 中島 勇斗

(司会)鶴見大学教授 菅野 素子

リベラリズムからサッチャリズムへ——

David Lodge の *Nice Work* における左派的な教育理念の敗北

本発表は、1986 年を舞台とする David Lodge の *Nice Work* (1988)を、右派と左派の教育理念の対立という観点から再考する。先行研究は本小説テキストを 19 世紀産業小説の現代版として捉え、ヴィクトリア時代と現代の社会的分断の相違点に注目しながら論じてきた。しかしこの枠組みでは、戦後イギリスの進歩主義的教育改革とそれに抵抗するサッチャリズムという、ロウワー・ミドル・クラス出身の大学人 Lodge と関わりの深い歴史的な文脈を捉えきれない。本小説テキストは教育に現実離れた新しい価値観を無批判に導入することの危険性を示唆しているものである、そう本発表は主張する。そこでまずは、作中におけるサッチャーに関する言及から登場人物の立場を整理する。次に、「シャドー計画」を通じたヴィクター・ウィルコックスとロビン・ペンローズの交流を精読し、保守的なヴィクターの変化がリベラルな価値観への共感ではなくロビンへの一時的な恋愛感情に基づくこと、そしてロビンが自らの浮世離れした理念と現実との矛盾に直面することを示す。最後に、E. M. Forster の *Howards End* (1910)との間テキスト性を踏まえて最終場面を再解釈し、本小説テキストが左派的な教育理念の敗北を示していることを明らかにする。

第 2 室(1 号館 2 階 1219 教室)

(発表者)東京大学博士課程 中地 拓馬

(司会)駒澤大学教授 川崎 明子

トウビーは「感情の人」か——

『トリストラム・シャンディ』における道徳的判断の条件

現代のスターン研究では、『トリストラム・シャンディ』(1759-1768)の道徳的言説の内容が Latitudinarianism の正統の範囲内にあることを、ほぼ一致して認めている。しかし同時代の読者は、批判者も擁護者も一致して、スターンを感傷主義の側に置いた。本発表はこの落差を出発点とし、感傷主義的読解の可能性の条件を問う。トウビーに注目するのは、二つの評価基準が彼において鋭く対立するからである。テキストは彼の慈悲的行動の動機を明確にしない。この沈黙は、打算的動機の不在を求める Shaftesbury 的感情主義の基準には答え、義務の宗教的源泉を求める Latitudinarianism の基準には答えない。それゆえテキストは、むしろ正統から外れた美德を描いているように見えるのである。本発表は論争の裁定を目的とせず、道徳的判定に必要な条件がテキストにおいて供給されているかを検討し、この判断基準の欠如が Latitudinarianism の道徳の中核に関わる可能性を提示する。

14:40-16:40【日本英文学会関東支部 20 周年記念企画】

〈日本英文学会関東支部 20 周年記念トークイベント〉(1 号館 2 階 1219 教室)

(司会)日本女子大学教授 佐藤 和哉  
(登壇者)東京大学名誉教授 丹治 愛  
(登壇者)東京大学名誉教授 齋藤 兆史  
(登壇者)成蹊大学教授 遠藤 不比人  
(登壇者)関東学院大学教授 奥 聡一郎  
(登壇者)東京藝術大学教授 侘美 真理  
(登壇者)東洋大学教授 久世 恭子  
(登壇者)東京大学教授 阿部 公彦  
(登壇者)慶應義塾大学教授 原田 範行

「日本英文学会関東支部の来し方行く末」

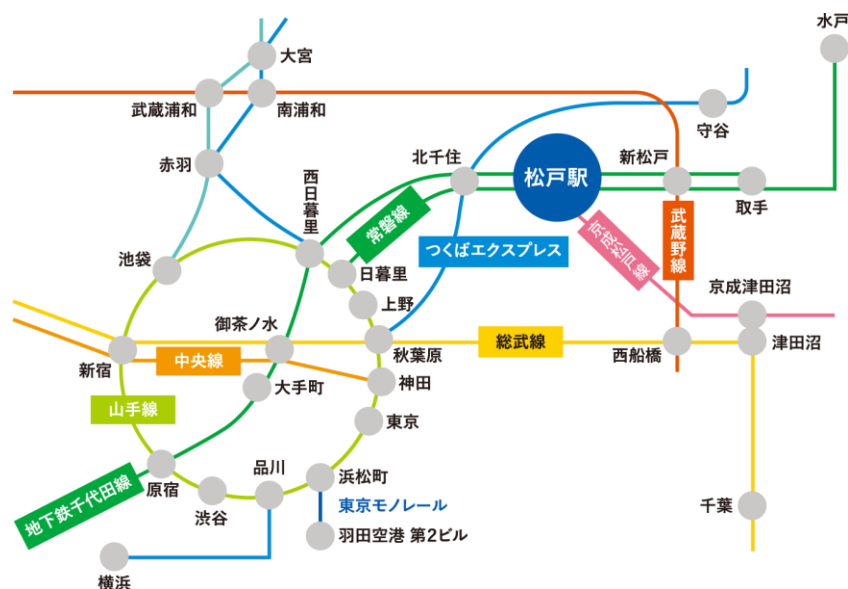
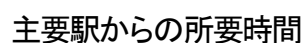
2006 年に正式に発足した日本英文学会関東支部は今年で 20 周年を迎える。

本大会では、その記念として、関東支部設立以来ご尽力いただいた多くの会員を代表して 8 名の登壇者を迎え、自由に語っていただくトークイベントを開催する。トークは、

- ・関東支部設立のころ(含む「若手の会」)
- ・関東支部としての活動の意義
- ・関東支部の出版物
- ・近年の文学批評・研究動向と関東支部
- ・関東支部の今後への展望

などの点を巡って展開する予定である。

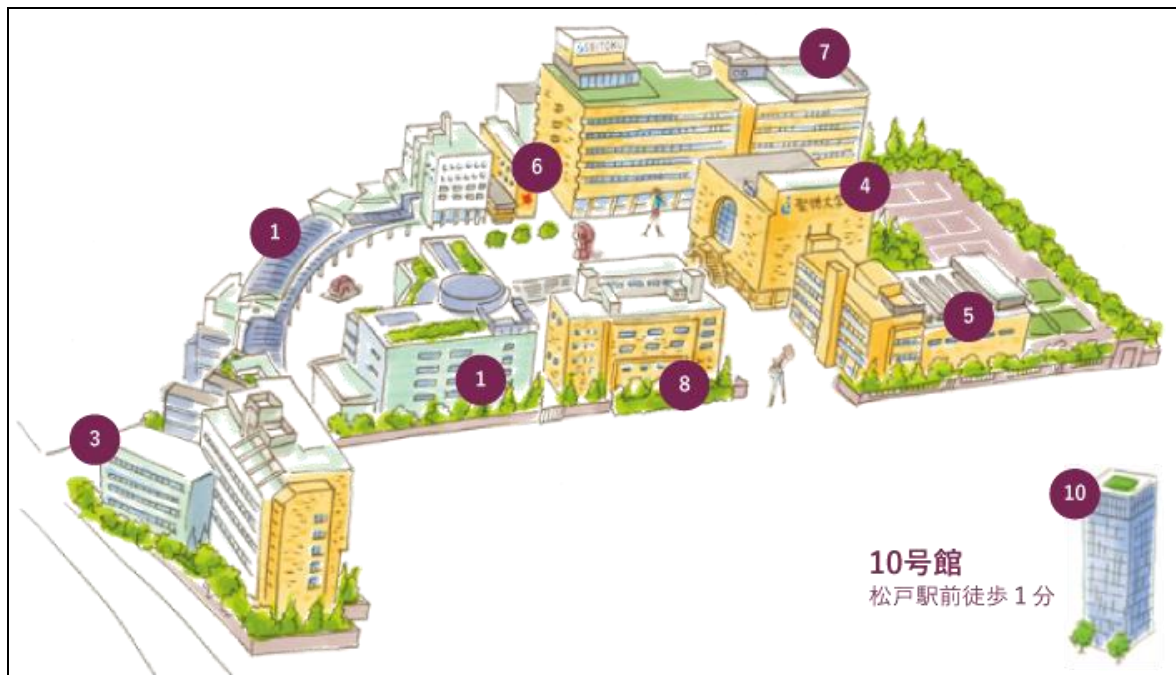
(<https://www.seitoku-u.ac.jp/access/>)



|                        |                        |                           |
|------------------------|------------------------|---------------------------|
| 上野駅から<br>約 <b>20</b> 分 | 東京駅から<br>約 <b>28</b> 分 | 池袋駅から<br>約 <b>29</b> 分    |
| 新宿駅から<br>約 <b>37</b> 分 | 渋谷駅から<br>約 <b>44</b> 分 | 品川駅から<br>約 <b>42</b> 分    |
| 横浜駅から<br>約 <b>49</b> 分 | 千葉駅から<br>約 <b>40</b> 分 | 京成津田沼駅から<br>約 <b>40</b> 分 |
| 大宮駅から<br>約 <b>48</b> 分 | 水戸駅から<br>約 <b>68</b> 分 |                           |

## キャンパスマップ(※聖徳大学より許可を得て大学 HP より転載)

([https://www.seitoku-u.ac.jp/campus\\_life/campus\\_map/](https://www.seitoku-u.ac.jp/campus_life/campus_map/))



・会場となる聖徳大学の Wi-Fi はご利用いただけません。インターネット接続が必要な場合は、ご自身で通信環境(テザリング、モバイルルーター等)をご準備くださいますようお願いいたします。

## 懇親会について(17:30-19:30)

・会場:Bistro Cafe "ENCORE"(アンコール)松戸

<https://encore.owst.jp/>

・会費:5,000 円(事前振込)／6,000 円(当日支払)

※ご出席の場合、以下の URL または QR コードにて事前にご予約のうえ、会費は事前振り込みにて承ります(受付は申込先着順といたします)。

※予約は 11 月 16 日(月)締切、事前振込は 11 月 20 日(金)締切です。

予約用 URL :<https://forms.cloud.microsoft/r/va5EhK84xm>

## 予約用 QR コード

日本英文学会関東支部 第28回大会  
懇親会 (2026年11月28日)

